

種名と配列に関わる解説等（軟体動物門）

○目録の解説

軟体動物門においては、「目名」と「科名」の列を設けずに、科以上の上位分類群を独立した見出し行として記入した。また、それら上位分類群すべてに対し、学名とその命名者・年を記入した。その理由は以下の通りである：

1. この門においては近年になってようやく目が設置された（従来は系統樹上のバランスの問題で設定が困難であったか、または提唱されていなかった）分類群が多く、「目名」の欄が不要なスペースとなってしまふ場合が少なくなかった。この問題は Ponder *et al.* (2020) および福田 (2021) によって概ね解消されたが、それらからまだ時間がさほど経っていないため新たな分類体系が十分に普及したとはいいがたい。

2. その一方で、この門では下綱 (infraclass)・区 (cohort)・亜区 (subcohort)・上目 (superorder)・上科 (superfamily) などが系統関係を理解する上で重要な階級であり、それらを記さずに目や科だけを記しても目録として使いづらいばかりか、理解を妨げて不要な混乱を招いてしまう可能性がある。

3. 福田 (2017, 2021) で解説した通り、この門（特に腹足綱と二枚貝綱）の系統分類は 1980 年代以降現在に至るまで未曾有の大激変期にあり、変化のスピードも速いため、既に世界的に広く使用されている上位分類群であっても日本ではまだ和名がなかったり、耳慣れなかったりする例が頻発している。このため、上位分類群を挙げる際は和名と学名をセットにしなればどの群に言及しているのか不明瞭となり、著しい混乱を招く恐れがある。

4. この門においては、すべての階層の学名に対し、命名者名と命名年を明記するのが最近 20 年間の世界的な慣例となっている。あらゆる階層の学名が頻繁に変更されるので、異名関係を考える際に出典や先取権の在処（古参名か新参名か）がすぐにわからないと不便だからである。

学名や分類体系は Ponder *et al.* (2020) を踏まえた福田 (2021) に準拠し、さらにインターネット上のデータベースである WoRMS Editorial Board (2026) と MolluscaBase (2026) も参考にした。

岡山県野生生物目録の前版 (2009) でのこの門の種数合計は 639 であった。そのうち 25 種はのちに誤同定と判明したか、または研究の進捗に伴う複数種の統合（異名化）によって削除された。一方で 2025 年 3 月までの 16 年間に 345 種が新規追加され、現時点の種数合計は 959 となった（その後 2026 年 3 月までにさらに 2 種が追加され、岡山県野生生物目録 2019 ver.2.1 時点での種数合計は 961）。

新規追加種の多くは畠田和一が 1930 年代～1965 年にかけて蒐集した標本（同氏の歿後長く行方不明であったが、2010 年に鏡野町で再発見された）に基づく。そのうち約 100 種は畠田氏の標本が岡山県における産出の唯一の証拠であり、その後再発見されていないため、本県では戦後の高度経済成長期に絶滅したか、極端に稀少となった可能性が高い。生息状況の項に「×」や「(+)」が多いのはそのためである。

岡山県での産出記録が少ない種は、備考欄に文献を引用するか、または現存する標本のデータを記した。標本データのうち、「H」は畠田標本、「M」は岡山大学農学部水系保全学研究室所蔵標本を示し、それらのあとの数字は登録番号である。

本目録およびこの解説の作成は検討会委員の福田 宏が担当した。作成にあたっては以下の協力員各位等の協力を得た（五十音順）：浅田 要（岐阜大学応用生物科学部）、浅見崇比呂

(信州大学学術研究院理学系), 東川洸二郎(笠岡市立カブトガニ博物館), 伊藤颯真(高知大学工学部生物科学科), 岩崎敬二(奈良大学文学部地理学科), 上地健琉(近畿大学農学部環境管理学科), 大谷ジャーメンウイリアム(滋賀県甲賀市), 柏尾 翔(きしわだ自然資料館), 亀田勇一(国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター), 木村昭一(三重大学大学院生物資源学研究科), 木村妙子(三重大学大学院生物資源学研究科), 久保弘文(沖縄県海洋深層水研究所), Frank Köhler (Australian Museum), 近藤高貴(大阪教育大学), 齊藤匠(東北大学東北アジア研究センター), 佐藤大義(琉球大学理学部海洋自然科学科), 澤田直人(東京大学大学院理学系研究科), 瀬尾友樹(近畿大学大学院農学研究科), 多留聖典(東邦大学東京湾生態系研究センター), John D. Taylor (The Natural History Museum, London), 中原ゆうじ(株式会社緑生研究所), 芳賀拓真(国立科学博物館地学研究部), 早瀬善正(株式会社東海アクアノーツ), Angel Valdés (Department of Biological Sciences, California State Polytechnic University, Pomona), 平野尚浩(琉球大学理学部海洋自然科学科), 平野弥生(千葉県立中央博物館分館海の博物館), Winston F. Ponder (Australian Museum), 元陳力昇(一般財団法人自然環境研究センター), 吉松定昭(元・香川県水産試験場), 和田太一(NPO 法人南港ウェットランドグループ), 渡部哲也(西宮市貝類館)。なお, 目録作成のための調査にあたっては日本貝類学会より助成を受けた。

○主な参考文献

- 阿部 司・福田 宏, 2010. 絶滅危惧種カワネジガイ (腹足綱: 有肺目: ヒラマキガイ科) の岡山県における新産地. *Molluscan Diversity*, **2**: 37–41.
- Bieler, R., Mikkelsen, P.M., Collins, T.M., Glover, E.A., González, V.L., Graf, D.L., Harper, E.M., Healy, J., Kawauchi, G.Y., Sharma, P.P., Staubach, S., Strong, E.E., Taylor, J.D., Tëmkin, I., Zardus, J.D., Clark, S., Guzmán, A., McIntyre, E., Sharp, P. & Giribet, G., 2014. Investigating the bivalve tree of life – an exemplar-based approach combining molecular and novel morphological characters. *Invertebrate Systematics*, **28**: 32–115.
- Bouchet, P., Rocroi, J.-P., Hausdorf, B., Kaim, A., Kano, Y., Nützel, A., Parkhaev, P., Schrödl, M. & Strong, E.E., 2017. Revised classification, nomenclator and typification of gastropod and monoplacophoran families. *Malacologia*, **61**: 1–526.
- 江木寿男, 2022. 岡山県における淡水底生動物の観察記録. *岡山県自然保護センター研究報告*, (29): 68–119.
- 福田 宏, 2010. 貝類・腕足類. In: 岡山県野生動植物調査検討会 (編), *岡山県版レッドデータブック 2009 動物編*, 253–255, 278–397, 399–404. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 福田 宏, 2017. 本書で採用した貝類の分類体系. In: 沖縄県環境部自然保護課 (編), *改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 (動物編) – レッドデータおきなわ*, 669–673. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
- 福田 宏, 2021. *Biology and Evolution of the Mollusca* で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. *Molluscan Diversity*, **6**: 89–180.
- 福田 宏, 2023. 貝類からみた岡山の環境変化. In: 岡山大学文明動態学研究所 (編), *大学的岡山ガイド—こだわりの歩き方*, 043–057. 昭和堂, 京都.
- Fukuda, H., 2023. A new genus and species of the Assimineidae (Caenogastropoda: Truncatelloidea) from temperate mainland Japan. *Molluscan Research*, **44**: 22–42.
- 福田 宏, 2024. 岐阜県博物館所蔵岡山県産貝類標本の再検討. *倉敷市立自然史博物館研究報*

- 告, (39): 25–74.
- 福田 宏・江田伸司, 2014. 岡山県倉敷市宮前で確認された移入陸産貝類オオクビキレガイ (腹足綱: オカクチキレガイ科). *倉敷市立自然史博物館研究報告*, (29): 39–44.
- 福田 宏・藤野睦子・江田伸司, 2014. 岡山県倉敷市高洲で生貝が見出されたウミヒメカノコ (腹足綱: アマオブネ科), ならびに同種とキンランカノコ・レモンカノコを巡る同定の混乱. *倉敷市立自然史博物館研究報告*, (29): 29–38.
- Fukuda, H., Ishida, S., Watanabe, T., Yoshimatsu, S. & Haga, T., 2021. The bivalve genus *Sunetta* (Heterodonta: Veneridae) of Japan and the neighboring waters – a taxonomic revision with the descriptions of three new species. *Molluscan Research*, **41**: 107–171.
- Fukuda, H., Ishikawa, H., Ito, S. & Haga, T., 2022. *Nitidotellina hachiensis* n.sp. (Bivalvia: Tellinidae) from the Seto Inland Sea, between Honshū and Shikoku, western Japan. *Molluscan Research*, **42**: 115–127.
- 福田 宏・森 生枝, 2016. 岡山県自然保護センター敷地内の田尻大池で21年ぶりに確認された絶滅危惧種カワネジガイ (腹足綱: 汎有肺類: ヒラマキガイ科), ならびに同種の棲息環境と水陸両棲生活に関する考察. *岡山県自然保護センター研究報告*, (23): 1–12.
- 福田 宏・鈴木田亘平, 2001. 人工湿原に定着しえた絶滅危惧貝類. *岡山県自然保護センター研究報告*, (9): 63–70.
- Habe, T., 1953. Limopsidae and Arcidae (1) in Japan. *Illustrated Catalogue of Japanese Shells, Edited by Dr. Tokubei Kuroda*, **1**(25): 201–213.
- 波部忠重, 1958a. 日本産二枚貝類4新種. *Venus*, **19**: 177–183.
- 波部忠重, 1958b. 日本産海産腹足類の歯舌に就いて (4). *Venus*, **20**: 43–60.
- Habe, T., 1960. Eleven new bivalves from Tanabe Bay, Wakayama Pref., Japan. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **8**: 281–288.
- 波部忠重, 1961. *続原色日本貝類図鑑*. 保育社, 大阪.
- 畠田和一, 1935. 岡山縣貝類方言. *Venus*, **5**: 229–236.
- 畠田和一, 1956. *岡山県産陸棲貝類目録*. 著者自刊, [岡山].
- Higo, S., Callomon, P. & Goto, Y., 1999. *Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-bearing Mollusca of Japan*. Elle Scientific Publications, Yao.
- Higo, S., Callomon, P. & Goto, Y., 2001. *Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-bearing Mollusca of Japan, Type Figures*. Elle Scientific Publications, Yao.
- 平瀬與一郎, 1910. *日本千貝目録*. 平瀬介館, 京都.
- 池辺進一・吉田 誠, 2006. *池辺進一コレクション 貝類標本目録*. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 稲葉明彦, 1982. *瀬戸内海の貝類*. 広島貝類談話会, 広島.
- 岩川友太郎, 1909. *日本産貝類標本目録 東京帝室博物館天産科 第壹篇 (海産腹足類及掘足類)*. 東京帝室博物館, 東京.
- 岩川友太郎, 1919. *日本産貝類標本目録 東京帝室博物館天産課*. 東京帝室博物館, 東京.
- Kameda, Y. & Fukuda, H., 2015. Redefinition of *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900) (Camaenidae), with description of a new cryptic species endemic to the coasts and islands of the central Seto Inland Sea, western Japan. *Venus*, **73**: 15–40.
- 環境庁自然保護局 (編), 1993. *第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 別冊・分布図 (陸産及び淡水産貝類)*. 環境庁自然保護局, 東京.

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), 2014. レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 貝類. ぎょうせい, 東京.
- 柏尾 翔・福田 宏, 2023. 岡山県瀬戸内市沖から得られた裸鰓類 2 種の記録. 倉敷市立自然史博物館研究報告, (38): 15–19.
- 柏尾 翔・田中広樹, 2021. 外来種ミノウミウシ *Trinchesia perca* (Marcus, 1958) の形態・生態学的知見, および日本国内における分布について. ちりぼたん, **52**: 30–43.
- Kawaguti, S. & Baba, K., 1959. A preliminary note on a two-valved sacoglossan gastropod, *Tamanovalva limax*, n.gen., n.sp., from Tamano, Japan. *Biological Journal of Okayama University*, **5**: 177–184.
- 木村昭一, 2025. 岡山県寄島町沖より採集された貝類. かきつばた, (50): 29–42.
- 北川隆春, 2017. 写真集 日本列島を取り巻く海の貝殻図鑑. ヨクラトル タナベンシス, 田辺.
- 公益財団法人水産無脊椎動物研究所, 2020. 水産無脊椎動物図鑑, 軟体動物門. <https://www.rimi.or.jp/dobutumenue/c/mollusca/> (2024 年 1 月 13 日閲覧)
- 窪田彦左衛門, 1962. 福井市立郷土博物館所蔵貝類標本目録. 福井市立郷土博物館, 福井.
- 黒田徳米, 1943. 中国地方の新陸産貝類 (1) ムシオヒガヒの新亜属新種. *Venus*, **13**: 7–11.
- 黒田徳米・東 正雄, 1982. 岡山県産陸産貝 (キセルガイ科) 一新亜種. *Venus*, **41**: 175–176.
- 黒田徳米・波部忠重, 1951. 中国地方産オホベソマイマイ属の 2 新種並に 2 新亜種. *Venus*, **16**: 78–82.
- Lopes-Lima, M., Hattori, A., Kondo, T., Lee, J. H., Kim, S. K., Shirai, A., Hayashi, H., Usui, T., Sakuma, K., Toriya, T., Sunamura, Y., Ishikawa, H., Hoshino, N., Kusano, Y., Kumaki, H., Utsugi, Y., Yabe, S., Yoshinari, Y., Hiruma, H., Tanaka, A., Sao, K., Ueda, T., Sano, I., Miyazaki, J.-I., Gonçalves, D.V., Klishko, O.K., Konopleva, E.S., Vikhrev, I.V., Kondakov, A.V., Gofarov, M.Y., Bolotov, I.N., Sayenko, E.M., Soroka, M., Zieritz, A., Bogan, A.E. & Froufe, E., 2020. Freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) from the rising sun (Far East Asia): phylogeny, systematics, and distribution. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **146**: 106755.
- MolluscaBase Eds, 2026. *MolluscaBase*. <http://www.molluscabase.org> (2026 年 4 月 3 日閲覧)
- 森 千恵・鈴木田亘平・田牧 愛・福田 宏, 2003. 岡山県瀬戸内海沿岸における注目すべき海産貝類 (予報). *Venus*, **62**: 88–89.
- 中野理枝, 2018. 日本のウミウシ. 文一総合出版, 東京.
- 日本ベントス学会 (編), 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野.
- Nürnberg, S., Shigeno, S. & von Byern, J., 2006. Distribution pattern of a minimalist - new records for *Idiosepius biserialis* (Idiosepiidae, Cephalopoda). *Acta Universitatis Carolinae - Geologica*, **49**: 145–147.
- 大垣内 宏, 1968a, b. 岡山県採集地案内 (その 1, 2). ちりぼたん, **5**: 45–46; 71–72.
- 岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所, 刊行年不詳. 無脊椎動物実習手引 第 3 版. 岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所, 牛窓.
- 岡山大学理学部附属玉野臨海実験所, 1978. 備讃瀬戸海域の生物相と主要実験動物の研究. In: 国立大学臨海臨湖実験所長会議 (編), 臨海・臨湖実験所周辺の生物相および主要実験生物に関する研究 (昭和 50–52 年度文部省科学研究費補助金総合研究 A 研究成果報告), 158–170. 国立大学臨海臨湖実験所長会議, 福岡.
- 岡山県, 1978. 第 2 回自然環境保全基礎調査海域生物調査報告書. 岡山県, 岡山.
- 奥谷喬司, 2009. 日本産 “ヒメイカ” は 2 種! ちりぼたん, **39**: 123.

- Pilsbry, H.A., 1900. Additions to the Japanese land snail fauna. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **51**: 525–530, pl. 21.
- Pilsbry, H.A., 1901. New Mollusca from Japan, the Loo Choo Islands, Formosa and the Philippines. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **53**: 193–210.
- Ponder, W.F., Lindberg, D.R. & Ponder, J.M., 2020. *Biology and Evolution of the Mollusca*. Volume 2. CRC Press, Taylor & Francis Group, Boca Raton, Louisiana.
- Saito, T., Do, V.T., Prozorova, L., Hirano, T., Fukuda, H. & Chiba, S., 2018. Endangered freshwater limpets in Japan are actually alien invasive species. *Conservation Genetics*, **19**: 947–958.
- Sano, I., Saito, T., Ito, S., Ye, B., Uechi, T., Seo, T., Do, V.T., Kimura, K., Hirano, T., Yamazaki, D., Shirai, A., Kondo, T., Miura, O., Miyazaki, J.-I. & Chiba, S., 2022. Resolving species-level diversity of *Beringiana* and *Sinanodonta* mussels (Bivalvia: Unionidae) in the Japanese archipelago using genome-wide data. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **175**: 107563.
- Sasaki, M. 1929. A monograph of the dibranchiate cephalopods of the Japanese and adjacent waters. *Journal of the Faculty of Agriculture, Hokkaido Imperial University*, **20**(supplement): 1–357, pls 1–30.
- Sawada, N., Fuke, Y. & Miura, O., 2025. Integrative taxonomy of *Semisulcospira kurodai* (Mollusca, Semisulcospiridae) with insights into its geographical variation and description of three new species from Japan. *Systematics and Biodiversity*.
- Schenck, H.G. & Reinhart, P.W., 1938. Oligocene arcid pelecypods of the genus *Anadara*. *Mémoires du Musée Royal d'Histoire Naturelle de Belgique, Deuxième série*, **14**: 1–73.
- Smith, E.A., 1879. On a collection of Mollusca from Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*, for 1879: 181–218, pls 19, 20.
- 鈴木 武, 2011. 新見市井倉洞のキイロナメクジ (コウラナメクジ). 倉敷市立自然史博物館友の会のメーリングリスト, 2011/11/13. <https://www.freeml.com/kuranet/13292> (2019年2月13日閲覧)
- 滝 巖・波部忠重, 1958. 日本産ニオガイ超科の分類. In: 岡田 要 (編), *木船木材蝕害とその防除*, 43–66, pls 1–4. 日本学術振興会, 東京.
- Taylor, J.D., Glover, E.A. & Williams, S.T., 2026. Classification and relationships of living species of Laternulidae (Bivalvia, Anomalodesmata): new light on lantern shells. *Zootaxa*, **5771**: 1–92.
- 上地健琉・児嶋 格・馬場 雄司・山田 浩二・柏尾 翔, 2024. 大阪府泉州地域産陸・淡水棲軟体動物チェックリスト. *きしわだ自然資料館研究報告*, (9): 31–57.
- ウミウシ図鑑.com, 2007. ウミウシ図鑑.com. <http://www.umiushi-zukan.com/main/top.php> (2019年2月13日閲覧)
- von Byern, J., Söller, R. & Steiner, G., 2012. Phylogenetic characterisation of the genus *Idiosepius* (Cephalopoda; Idiosepiidae). *Aquatic Biology*, **17**: 19–27.
- WoRMS Editorial Board, 2026. *World Register of Marine Species*. <http://www.marinespecies.org> (2026年4月3日閲覧)
- 矢野重文, 1979. 児島湾採集記. *いそこじき*, (35): 1–3.
- 安田治三郎・高森茂樹, 1952. アサリ種苗に関する研究. *内海区水産研究所研究報告*, (2): 1–11.
- 吉岡郁夫, 1970. 岡山県神ノ島榎浜の潮間帯貝類. *ちりぼたん*, **6**: 1–4.